

## 博士論文要旨

学籍番号	1209002	氏名	山田 洋子
論文題目	看護学士課程における予防的支援の教育に関する研究		
<p><b>目的：</b>本研究の目的は、予防的支援を実践できる看護職の能力を明らかにし、その能力を培う学士課程における教育内容を追究することである。本研究において予防的支援とは、あらゆる健康レベルの人を対象とし、「健康と安寧を妨げるもの（病気や障害）を防ぐこと」と「よりよい状態（well-being）に向けて自己管理・自己実現できるようにすること」、この両者を相互に関連させながら、生活の質を高める方向で支援すること、とする。</p> <p><b>方法：</b>本研究は4つの研究より構成された。研究1では、文献調査および看護職への実践事例の聞き取りにより、看護職が発揮している予防機能を明確にした。研究2では、研究1に基づき作成した「予防的支援を実践できる看護職に必要な能力案」を、看護職への意見聴取により精練させ、「予防的支援を実践できる看護職に必要な能力」を明確にした。研究3では、シラバス等既存資料の記載内容の確認およびこれを補完するための教員への聞き取りにより、岐阜県立看護大学における予防的支援に関する教育内容の現状を把握した。研究4では、研究1～3の結果を統合して、学士課程卒業時点での習得をめざす予防的支援を実践できる看護職に必要な能力およびこの能力を培う教育内容を考察した。</p> <p><b>結果：</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1．看護職が発揮している予防機能は、「将来に向かう時間的経過をふまえて情報収集し、問題を予測し、支援を行う」「顕在している問題からつながる問題を予測する」「対象が主体的に問題解決・発生予防のための生活改善に取り組めるように支援する」等、14項目に整理された。</li><li>2．予防的支援を実践できる看護職に必要な能力は、 予防的支援の前提であり看護の基本として必要な能力 先を予測し取り組むべき問題を判断する能力 予測される問題に対して対象のもてる力を高めることにより対応する能力 予測される問題に対応するために必要な方法・体制をつくる能力 予防的支援にかかわる力量を自ら高めていく能力、以上5つの大項目に集約された。</li><li>3．現行の教育内容と導出した14の予防機能との照合の結果、「顕在している問題からつながる問題を予測する」「予防に向けた具体的な支援の方法を工夫し創出する」の2つの予防機能に関する教育内容を明示している科目は少なかった。</li><li>4．学士課程卒業時点での習得をめざす予防的支援を実践できる看護職に必要な能力は、結果2で示した5大項目14項目のうち5項目の到達レベルを変更し提示することができた。</li></ol> <p><b>考察：</b>予防的支援は、現在とこれにつながる過去、将来の状況という時間軸で対象を理解し支援を考えること、並びに対象を個人とその人が属する生活集団という重層的な捉え方から援助を展開することが重要であり、これらを意図的に教育内容に組み込むことが重要である。各科目の学習目的・目標に沿いつつ、学士課程卒業時点での習得をめざす予防的支援を実践できる看護職に必要な能力を意識して、予防としてより意義の高い援助を展開する際の基盤となる能力を培うことが必要である。</p>			

( 別記様式 7 )

番 号 :

平成 24 年 2 月 15 日

## 平成 23 年度博士論文審査結果報告書

主 査	服部 律子
副 査	小西 美智子
副 査	北山 三津子

平成 23 年度博士論文の審査及び最終試験を実施した結果は、下記のとおりです。

### 記

学籍番号 : 1209002

氏 名 : 山田 洋子

審査結果 : ☒ 1 . 合格      2 . 不合格      3 . 保留

[ 審査結果要旨 ]

( 1,000 字以内 )

本研究は(論文題目「看護学士課程における予防的支援の教育に関する研究」)は、あらゆる健康レベルの人を対象に、健康と安寧を妨げる病気や障がいを防ぐことと、よりよい状態に向けて自己管理・自己実現できるように相互に関連させながら、生活の質を高める予防的支援について、看護職が一貫性・連続性をもって実践できる能力を明らかにし、さらにこの予防的支援ができるために学士課程卒業時での能力と、その能力を培う教育を提言したものである。

看護活動において予防的支援を行っているとは推定できる文献、および10名の看護職者への面接分析から、看護職が発揮している予防機能は14項目5カテゴリーが抽出できた。この予防機能を基に予防的支援を実践できる看護職に必要な能力は、看護の基本、予測し取り組む課題を判断、対象の力を高める対応、方法・体制を整備・創造、看護職の力量の5大項目と、14項目の能力が明らかになった。

この14項目の能力と「看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」との対比、および抽出した予防機能14項目と現行の学士課程教育内容と照合し検討した。その結果、学士課程において予防的支援を実践できる看護職を育成する教育は、対象の健康・生活課題を現在とこれにつながる過去、将来の状況という時間軸で理解して支援を考えること、並びに対象を個人とその属する生活集団という重層的な捉え方から援助を展開することが重要であり、これらを意図的に教育内容に組み込むことが必要であることが実証された。

この研究はデータ分析と先行研究との考察から構成されており、学士課程における予防的支援能力の教育に多くの示唆を与え、高く評価できる。本研究科の倫理基準に基づいており、倫理上問題なく論旨に一貫性があり科学的に論述されている。

なお、審査会議のうち3回は当該学生が出席し、主査・副査から直接指導を受け、さらに口頭試問による最終試験に合格した。

以上から、本論文は博士論文として価値あるものと認める。